

武蔵野市長としてリードした先進の施策 土屋正忠代議士が国政で実現!!

国政は日々の暮らしの中にあります

土屋正忠代議士は、毎朝8時から開催される自民党政調調査会の各部会に欠かさず出席し、具体的な政策提言を行ってきました。子どもを守るケータイフィルタリング、障害者自立支援法の改正、長寿医療制度の保険料の一人5000円引き下げ、消費者庁の設置、耐震偽装問題チーム、中小企業の事業承継や都市農業を守る税制、22年策定の中期防衛大綱チーム、尖閣列島油田開発、公務員ムダづかい撲滅プロジェクト、社会保険庁改革チーム等々、多岐にわたり精力的に取り組んでいます。今回は、武蔵野市長時代に先進的に取り組んできた施策で、国の制度となった事例をご報告いたします。

地域の力 つくる日本

1.「ムーバス」ー法律をつくる 900市町村に拡がる

住宅街の生活道路を走るムーバス。全国初のコミュニティバス実現まで運輸省(当時)や警視庁等と4年半の協議を経て、**平成7年11月実現**。現在は全国900市町村で取り入れられて実施されています。土屋代議士は議員立法で「**地方公共交通の活性化と再生に関する法律**」をつくり、全国自治体を支援しています。



2.「セカンドスクール」 国の学習指導要領に

平成7年から小学5年生と中学1年生で実施しているセカンドスクール。子どもたちの目が輝き、元気ハツラツの素晴らしい効果に驚きます。土屋代議士は市長時代から**中央教育審議会の委員**として**全国実施を主張**してきました。総務大臣政務官となって総務省・文科省・農水省の課長レベルの研究会もつくり、予算も3省合わせて100億円近くを創設。**財務省主計官も井之頭小を視察**し、ついに学習指導要領の中に正規の授業として位置付けることが出来ました。



3.子育ては楽し 「0123はらっぱ」国の制度に

0123吉祥寺・0123はらっぱは**平成4年**に武蔵野市で始まった0～3歳までの新しい子育て支援施設です。毎日200組の親子が利用しており、**厚労省の保育課長も視察**しました。平成20年、**児童福祉法の改正**を行い、**法定の事業として位置付け**られました。また、この改正で両親共働きではない家庭でも保育園が利用できるようになりました。モデルは武蔵野市の子どもテンミリオンハウス『あおば』です。



4.「エコカー」「太陽光発電」 「燃料電池第一号」

環境庁(当時)指定の**電気自動車第一号**を武蔵野市が購入したのは昭和60年です。**太陽光発電**は平成6年、**燃料電池**は平成17年の大野田小学校(写真)が日本の第一号です。土屋代議士は太陽光発電などの本格導入と補助金の充実、税制の優遇を自民党税制調査会などで強く主張。**平成21年度、太陽光発電補助**や学校ニューディール計画などの予算が実現しました。



5.違法駐車取締りの民間委託で 交通渋滞の一掃

違法駐車は交通渋滞や事故の原因となっています。平成2年から始まった吉祥寺駅周辺の**全国初の違法駐車防止条例**は、民間警備会社に委託して市独自で違法駐車対策を実施するという画期的な内容でした。土屋代議士の提言で、**道路交通法を改正**。全国で実施されるようになりました。

6.民間借上げ福祉型住宅 一始まりは武蔵野市

平成2年に全国初の**高齢者向けの民間借上げ住宅**が武蔵野市吉祥寺本町の『三宝苑』で始まりました。それから20年、土屋代議士が案内して**国交省住宅局・厚労省老健局など課長チームの合同視察**があり、高齢者居住安定確保法が改正。生活支援施設と民間借上げ住宅の合築ができるようになりました。

7.家具の転倒防止、大震災に備える 一市町村に財源を手当て

平成17年、**武蔵野市は65歳以上の世帯に家具の転倒防止器具の無料取り付け事業を実施**。土屋代議士は消防庁所管の**総務大臣政務官に就任**すると全国へこの事業を普及するため、**地方交付税で財源の手当て**をして推進。さらに東京都市長会会長に提言。地方振興宝くじの益金20億円を使い、**多摩地域400万人を対象に家具の転倒防止器具無料事業**を平成21年度から実施しています。



ブログ
毎日更新中!!

土屋正忠国会レポート12号

◆自由民主党東京都第18選挙区支部◆

〒180-0006 東京都武蔵野市中町2-6-5 アルファ武蔵野2-103
TEL:0422-59-0291 FAX:0422-59-0292

衆議院議員 土屋正忠 ホームページアドレス <http://www.tsuchiya-masatada.com>
ブログ <http://blog.livedoor.jp/shugiin08846/>

◆◇国会レポートのバックナンバーはホームページ上でご覧頂けます◆◇



8. 吉祥寺駅にエレベーター —40年振りに大改装、今秋着工

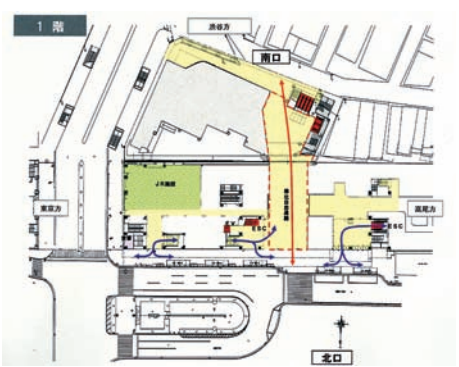


吉祥寺駅は、一日の乗降客数が40万人を超える全国でも有数の駅ですが、ホームまでのエレベーターが未設置でした。ロンロンが営業中であり、構造上も難しいことと、40年振りの大改修なので周辺整備を一緒に行うことなど、複数の要因が重なったので遅れていました。このたび、京王線との調整もつき、

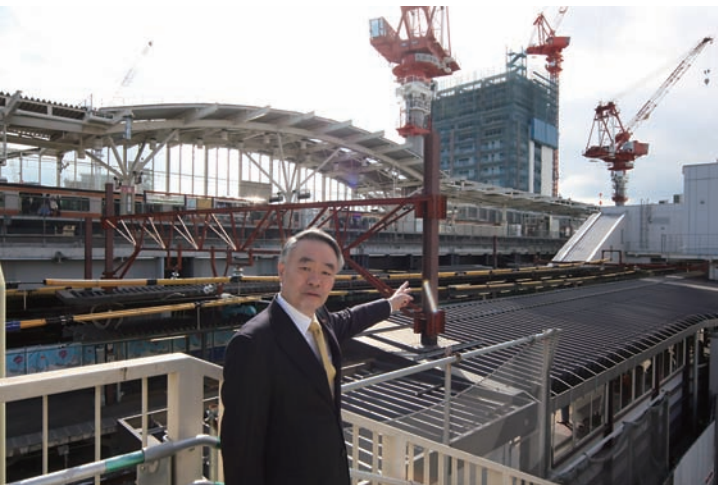
今秋着工することになりました。

- 工事は、エレベーターの設置にプラスして耐震補強や利便性の向上など、合わせて100億円を超える大工事となり、95%以上がJRの負担です。
- この工事に合わせて、南北の通路を8mから16mへ。東側改札口やロンロンの改札口の開業時間の延長など、さまざまな利便性の向上が図られます。

- 工事時間は、終電から始発までの正味3時間ほどのため、完成まで4年程度かかります。
- 私は昨年1月、JR東日本の社長に、吉祥寺駅改装について直接要請いたしました。社長も「乗客の安全が第一です」と力強く応え、翌週、吉祥寺駅に現場視察に来てくれました。異例のことです。
- 昨年3月には、衆議院予算委員会でも吉祥寺駅改装について取り上げ、国土交通省鉄道局長他から国庫補助金によるバックアップ等の回答を引き出しました。



9. JR中央線上り線12月に高架へ



JR中央線高架事業は、平成元年に東京都が調査費7000万円を予算化したことがきっかけで具体的な準備に入りました。その後、別表のような道程を経て、今年12月には、上り線も高架となります。三鷹駅まで高架となって以来、40年振りのことです。

三鷹—立川間連続立体交差事業は、全部で18ヶ所の踏切を除去する日本で最長の立体交差事業です。総事業費は約1800億円。鉄道事業者が300億円を負担、残り1500億円のうち国の補助が750億円でガソリン税が原資です。武蔵野市・小金井市など沿線市が200億円を負担、残り550億円が東京都の負担です。

上り線が高架になった後に駅舎の工事が本格化して、完成予定は平成22年度末の予定です。来年からは、武蔵境地区は南北一体となった街づくりがさらに進むでしょう。

昭和44年4月	中央線荻窪—三鷹間高架複々線事業完成
昭和44年6月	沿線市による「中央線三鷹—立川間立体化複々線促進協議会（促進協議会）」が発足し、促進活動を展開
この間、地元沿線市が事業費負担ゼロを主張していたため、具体的な事業の進展なし	
昭和58年10月	土屋武蔵野市長の提案により、地元負担やむなしに方針変更
昭和62年4月	国鉄分割民営化によりJR東日本発足
昭和63年9月	東京都が「多摩島嶼振興推進本部」設置 メイン事業として、連続立体交差事業を採択するよう、 青木立川市長、土屋武蔵野市長等が、 鈴木都知事や水村一郎自民党都議会幹事長へ陳情
昭和63年12月	土屋市長、JR本社に陳情。都との協議再開を強く要請
平成元年4月	東京都とJRが、各々調査費7000万円を予算計上 事業の具体化が始まる
平成3年11月	東京都知事・JR東日本社長間で連立事業促進を図ることで合意協定
平成6年5月	鉄道・関連側道・交差道路が都市計画決定される
平成7年11月	三鷹—立川間で事業認可取得、事業着手
平成11年3月	JR中央線着工記念式典実施
平成12年7月	小金井市内の生産緑地の一時借用について、租税特別措置法改正を 土屋武蔵野市長と稲葉小金井市長が橋本龍太郎元総理へ陳情
平成13年3月	租税特別措置法が改正 小金井市生産緑地問題が解決し、事業が本格的に始まる
平成20年4月	財源のガソリン税の引き下げのため、危うく工事中止に！ 一ヶ月後に元に戻り、工事が続行に

- **毎朝7時 電車で通勤**——永田町の自民党本部で、朝8時から開催される政務調査会に出席。政策形成や法案審査に参加しています。
- **国会レポート11号250万部発行**——国会議員としての活動報告を、4年間で11回発行。**府中・小金井・武蔵野**三市の主要な新聞6紙に、1回18万部折込み。郵送や街頭でも配布しています。
- **市民との対話4万人**——地元三市の運動会、お祭り、文化発表会、福祉の集いなど、各種イベントに年間1000回以上参加し、4万人を超える市民と対話しています。
- **ボランティアとカンパに支えられて**——市議・市長時代から続く政治スタイル。大勢の方々のカンパとボランティアに支えられ、政治活動を進めています。

◆◇武蔵野市長22年のあゆみ◆◇

昭和58年 市職員4000万円高額退職金を是正
地方自治体の行政改革の先駆けとなる

昭和61年 10年越しの武蔵境駅北口都市計画を決定

昭和62年 吉祥寺駅北口駅前広場23年ぶりに完成

平成元年 全国初、違法駐車防止条例を制定

平成4年 0〜3歳の乳幼児とその親を対象とした
全国初の子育て支援施設「0123吉祥寺」
を開校

平成6年 国や都に強力に働きかけ、JR中央線の
三鷹—立川間連続立体交差事業が
都市計画決定

平成7年 全国初、コミュニティバス
「ムーバス」を運行開始

平成7年 全国初、全小中学校で長期自然体験学習
「セカンドスクール」を実施

平成12年 全国初、高齢者や障害者の民間移送
サービス「レモンキャブ」本格運行

平成12年 介護保険導入にあたり、全国市長会で
国に様々な提言。制度が改善される。

平成14年 生活安全条例つぎまとい防止条例施行

平成16年 子ども虐待を防止する
子育てSOS支援センター設置

土屋正忠

プロフィール

昭和17年生まれ。都立武蔵高校卒、早稲田大学法学部卒業。
武蔵野市職員、同市議を経て41歳で武蔵野市長。6期22年の
間に全国のモデルとなった大胆な施策を次々と実現。平成17
年9月衆議院議員初当選。平成18年、1年目にして総務大臣政
務官に就任。夕張市再建チームリーダーや頑張る地方応援プ
ログラム創設など、全国1800市町村を支援。日本野鳥の会理事。